「FUT数理・データサイエンス・AI教育プログラム」自己点検・評価体制における意見等（様式5）

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
プログラムの履修・修得状況	令和4年度の1年次学生のプログラム履修率は82%（416名／505名）であり，令和3年度に比べて3ポイント減少してはいるものの，この履修率がこれからもこのまま維持されるのであれば問題ないといえる。しかしながら，単位の修得状況に関しては，令和3年度よりも単位を修得できなかった学生の割合が増えていることから，もう少し修了者数が増えるようにプログラム全体での工夫・改善が必要であると思われる。
学修成果	令和3年度と同様に，Ⅰ・ⅡグループとⅢ・Ⅳのグループの成績評価にかなりの差があることに加え，令和4年度の1年次学生の成績評価がいずれの学科においても低いほうにシフトしているため，令和5年度に向けプログラム全体での成績評価の平準化と授業難易度の調整が必要ではないか。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	「授業改善のためのアンケート」の設問2・3・8の結果に関して，工学部と他学部とで差があるだけでなく，全学平均と比べてもかなりの開きがある。令和3年度にも同様の指摘を行ったが，授業改善のためのアンケートの自由回答欄の記載内容を踏まえ，工学部において学修者主体の授業が行われているかどうか検証する必要があるのではないか。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	授業改善のためのアンケートの自由回答欄を見る限り，否定的な意見も相当数あるため，改善すべき点を改めるようにしないと履修率のさらなる低下を招くだけでなく，将来的に後輩等他の学生への推奨につながらない恐れがある。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	プログラムの履修者数・履修率をさらに高めるための手段の一つとして，上述のように受講生の意見を取り入れてプログラムをより良いものにしていくことが考えられる。令和3年度に比べて，授業改善のためのアンケートの回答状況は向上しているものの，まだ十分とはいえず，履修者の意見を汲み取るためにも回答率をさらに上げる工夫が必要といえる。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	令和3年度も同様な指摘を行ったが，実際の授業内容はともかく，数理・データサイエンス・AIとどのように結びつくのか，テーマ名から想像しにくいもの（例えば，「レーザーの基礎と大学生活の基礎」の「大学生活の基礎」など）が含まれているため，引き続き検討が必要ではないか。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	令和3年度も同様な指摘を行ったが，Ⅰグループ全体での「無」の評価が10%を超えている。主因は受講生の欠席にあるとしても，その状況をもたらしている理由を引き続き調査して改善する必要があるのではないか（特に，1年次学生においては無の評価が5.7%から8.9%に3ポイント以上増加しているため，1年次にしては授業の内容が難しすぎて興味がもてず，結果的に欠席に至ってしまうというようなことはないのか検証する必要がある）。